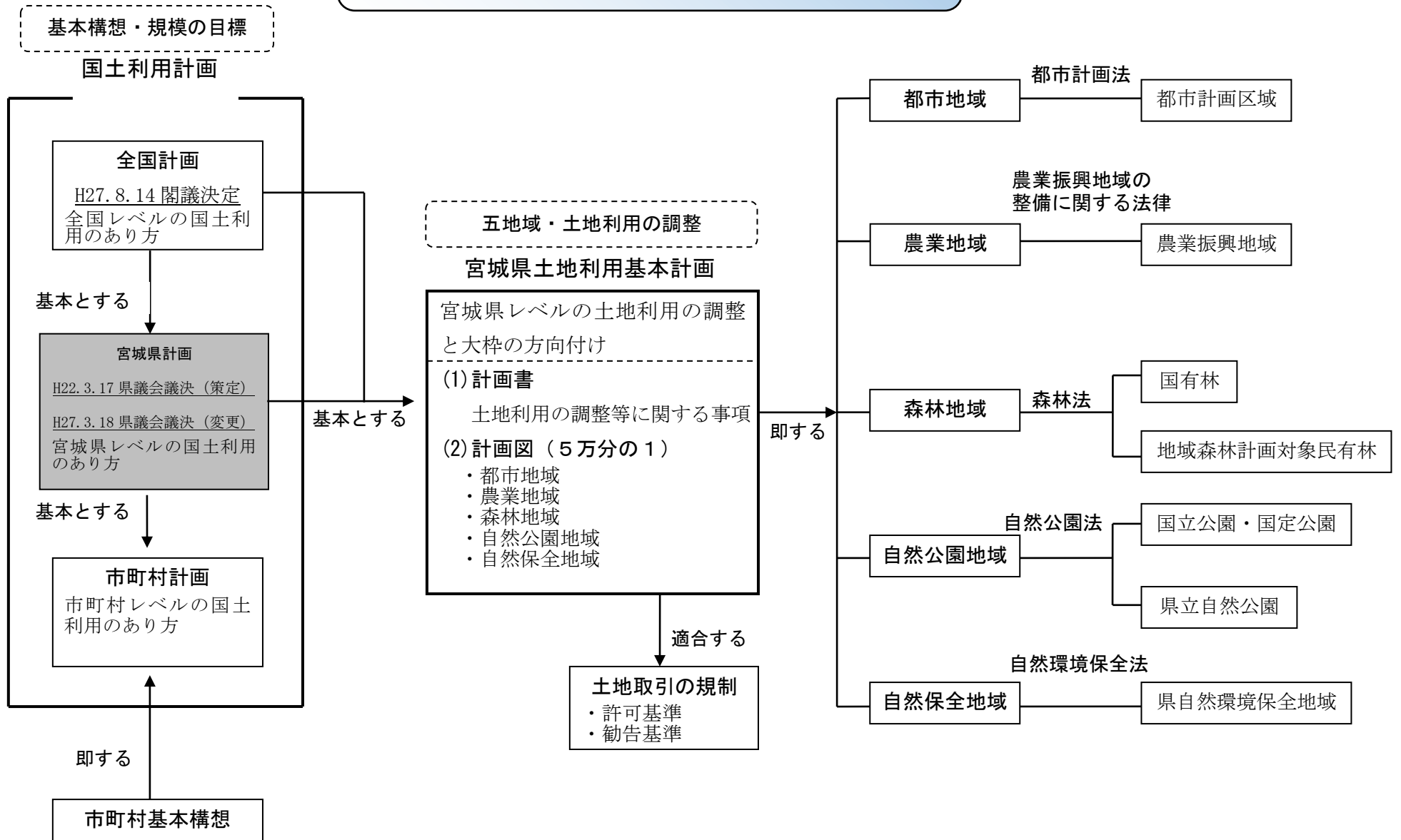


国土利用計画・土地利用基本計画の体系図

参考資料 1



第五次宮城県国土利用計画の概要

【現行計画】平成22年3月改定

平成27年3月変更

前文	<ul style="list-style-type: none">東日本大震災により沿岸部を中心に土地利用の現況が大きく変化した。国土利用計画（第五次）改定において、中間年を目途に総合的な点検を行うとされている。				
1 県土利用の基本理念	<ul style="list-style-type: none">公共の福祉を優先させ、自然環境の保全を図りつつ、地域の自然的、社会的、経済的及び文化的条件に配慮して、健康で文化的な生活環境の確保と県土の均衡ある発展を図る。「宮城県震災復興計画」を着実に推進し、「創造的な復興」の実現を目指す中で、県内市町村の震災復興計画との調和が保たれた県土利用を図る。				
2 県土利用の現状と課題	<table border="1"><tr><td data-bbox="332 569 1127 932"><p>(1) 県土利用の現況</p><ul style="list-style-type: none">土地利用上、構成比に大きな変化はないが、津波被害等による農地の減少や災害危険区域の指定等により利用目的の定まらない「その他」地目が増加。近年、自然的土地利用から都市的土地利用への転換は緩やかに推移してきたが、震災に伴う復興事業等により増加傾向。</td><td data-bbox="1127 569 2902 932"><p>(2) 県土利用の現状からみた諸課題</p><ul style="list-style-type: none">イ 震災による基本的条件の変化<ul style="list-style-type: none">人口の減少津波被害による農地の大幅減少復興のまちづくり沿岸被災地の市街地空洞化の加速安全性への要請と再生可能エネルギー地域コミュニティ弱体化ロ 県土の有効利用と土地利用転換の適正化<ul style="list-style-type: none">都市機能の分散による環境負荷の増加や新たなコスト発生ハ 県土利用の質的向上<ul style="list-style-type: none">安全な住環境確保防災機能の再構築自然との共生・循環を重視した県土利用美しい景観の形成等に対する要請の高まりニ 県土利用をめぐる新たな動き<ul style="list-style-type: none">震災復興計画等に基づいた土地利用国土強靱化の基本理念人口減少社会を見据えた地域のあり方</td></tr></table>	<p>(1) 県土利用の現況</p> <ul style="list-style-type: none">土地利用上、構成比に大きな変化はないが、津波被害等による農地の減少や災害危険区域の指定等により利用目的の定まらない「その他」地目が増加。近年、自然的土地利用から都市的土地利用への転換は緩やかに推移してきたが、震災に伴う復興事業等により増加傾向。	<p>(2) 県土利用の現状からみた諸課題</p> <ul style="list-style-type: none">イ 震災による基本的条件の変化<ul style="list-style-type: none">人口の減少津波被害による農地の大幅減少復興のまちづくり沿岸被災地の市街地空洞化の加速安全性への要請と再生可能エネルギー地域コミュニティ弱体化ロ 県土の有効利用と土地利用転換の適正化<ul style="list-style-type: none">都市機能の分散による環境負荷の増加や新たなコスト発生ハ 県土利用の質的向上<ul style="list-style-type: none">安全な住環境確保防災機能の再構築自然との共生・循環を重視した県土利用美しい景観の形成等に対する要請の高まりニ 県土利用をめぐる新たな動き<ul style="list-style-type: none">震災復興計画等に基づいた土地利用国土強靱化の基本理念人口減少社会を見据えた地域のあり方		
<p>(1) 県土利用の現況</p> <ul style="list-style-type: none">土地利用上、構成比に大きな変化はないが、津波被害等による農地の減少や災害危険区域の指定等により利用目的の定まらない「その他」地目が増加。近年、自然的土地利用から都市的土地利用への転換は緩やかに推移してきたが、震災に伴う復興事業等により増加傾向。	<p>(2) 県土利用の現状からみた諸課題</p> <ul style="list-style-type: none">イ 震災による基本的条件の変化<ul style="list-style-type: none">人口の減少津波被害による農地の大幅減少復興のまちづくり沿岸被災地の市街地空洞化の加速安全性への要請と再生可能エネルギー地域コミュニティ弱体化ロ 県土の有効利用と土地利用転換の適正化<ul style="list-style-type: none">都市機能の分散による環境負荷の増加や新たなコスト発生ハ 県土利用の質的向上<ul style="list-style-type: none">安全な住環境確保防災機能の再構築自然との共生・循環を重視した県土利用美しい景観の形成等に対する要請の高まりニ 県土利用をめぐる新たな動き<ul style="list-style-type: none">震災復興計画等に基づいた土地利用国土強靱化の基本理念人口減少社会を見据えた地域のあり方				
3 県土の利用に関する基本構想	<table border="1"><tr><td data-bbox="332 959 1365 1423"><p>(1) 県土利用の基本方針</p><p>より良い状態で県土を次世代へ引き継ぐことができる 「持続可能な県土管理」の実現</p><p>＜創造的な復興に向け「安全性の強化と質の向上」に主眼を置いた土地利用の推進＞</p><ul style="list-style-type: none">イ 創造的な復興のための土地利用（防災機能の強化を重視した県土利用、コミュニティの維持に配慮した県土利用）ロ 県土の有効利用及び土地利用転換の適正化ハ 県土利用の質的向上（安全で安心できる県土利用、自然との共生・循環を重視した県土利用、美しくゆとりある県土利用）ニ 県土利用をめぐる新たな動きへの対応（震災復興計画・ビジョンに基づいた県土利用、沿岸部の復興まちづくり、県土の強靱化、人口減少を見据えた地方創生の取組に配慮した土地利用）</td><td data-bbox="1365 959 2077 1423"><p>(2) 地域類型別の県土利用の基本方向</p><ul style="list-style-type: none">イ 都市：市街地における土地利用の高度化 農山漁村との交流 低未利用地の有効利用の促進 コンパクトなまちづくり 災害に強い都市構造の形成ロ 農山漁村：優良農地及び森林の確保 農地の利用集積の推進 効率性・安全性を重視した土地利用ハ 自然維持地域： すぐれた自然の風景地等の適正な保全 環境に配慮したまちづくり 自然とのふれあいの場</td><td data-bbox="2077 959 2902 1423"><p>(3) 利用区分別の県土利用の基本方向</p><ul style="list-style-type: none">イ 農地：災害に強い農業・農村づくりロ 森林：森林整備及び保全、林業・木材産業の活力回復ハ 原野等：保全、再生、自然環境への配慮ニ 水面・河川・水路： 地盤沈下に伴う低平地の治水安全度の向上ホ 道路：防災道路ネットワークの早期形成ヘ 宅地：安全・安心のまちづくりト その他：低未利用地の再利用、耕作放棄地の有効利用 沿岸部における多重防御によるまちづくり</td></tr></table>	<p>(1) 県土利用の基本方針</p> <p>より良い状態で県土を次世代へ引き継ぐことができる 「持続可能な県土管理」の実現</p> <p>＜創造的な復興に向け「安全性の強化と質の向上」に主眼を置いた土地利用の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none">イ 創造的な復興のための土地利用（防災機能の強化を重視した県土利用、コミュニティの維持に配慮した県土利用）ロ 県土の有効利用及び土地利用転換の適正化ハ 県土利用の質的向上（安全で安心できる県土利用、自然との共生・循環を重視した県土利用、美しくゆとりある県土利用）ニ 県土利用をめぐる新たな動きへの対応（震災復興計画・ビジョンに基づいた県土利用、沿岸部の復興まちづくり、県土の強靱化、人口減少を見据えた地方創生の取組に配慮した土地利用）	<p>(2) 地域類型別の県土利用の基本方向</p> <ul style="list-style-type: none">イ 都市：市街地における土地利用の高度化 農山漁村との交流 低未利用地の有効利用の促進 コンパクトなまちづくり 災害に強い都市構造の形成ロ 農山漁村：優良農地及び森林の確保 農地の利用集積の推進 効率性・安全性を重視した土地利用ハ 自然維持地域： すぐれた自然の風景地等の適正な保全 環境に配慮したまちづくり 自然とのふれあいの場	<p>(3) 利用区分別の県土利用の基本方向</p> <ul style="list-style-type: none">イ 農地：災害に強い農業・農村づくりロ 森林：森林整備及び保全、林業・木材産業の活力回復ハ 原野等：保全、再生、自然環境への配慮ニ 水面・河川・水路： 地盤沈下に伴う低平地の治水安全度の向上ホ 道路：防災道路ネットワークの早期形成ヘ 宅地：安全・安心のまちづくりト その他：低未利用地の再利用、耕作放棄地の有効利用 沿岸部における多重防御によるまちづくり	
<p>(1) 県土利用の基本方針</p> <p>より良い状態で県土を次世代へ引き継ぐことができる 「持続可能な県土管理」の実現</p> <p>＜創造的な復興に向け「安全性の強化と質の向上」に主眼を置いた土地利用の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none">イ 創造的な復興のための土地利用（防災機能の強化を重視した県土利用、コミュニティの維持に配慮した県土利用）ロ 県土の有効利用及び土地利用転換の適正化ハ 県土利用の質的向上（安全で安心できる県土利用、自然との共生・循環を重視した県土利用、美しくゆとりある県土利用）ニ 県土利用をめぐる新たな動きへの対応（震災復興計画・ビジョンに基づいた県土利用、沿岸部の復興まちづくり、県土の強靱化、人口減少を見据えた地方創生の取組に配慮した土地利用）	<p>(2) 地域類型別の県土利用の基本方向</p> <ul style="list-style-type: none">イ 都市：市街地における土地利用の高度化 農山漁村との交流 低未利用地の有効利用の促進 コンパクトなまちづくり 災害に強い都市構造の形成ロ 農山漁村：優良農地及び森林の確保 農地の利用集積の推進 効率性・安全性を重視した土地利用ハ 自然維持地域： すぐれた自然の風景地等の適正な保全 環境に配慮したまちづくり 自然とのふれあいの場	<p>(3) 利用区分別の県土利用の基本方向</p> <ul style="list-style-type: none">イ 農地：災害に強い農業・農村づくりロ 森林：森林整備及び保全、林業・木材産業の活力回復ハ 原野等：保全、再生、自然環境への配慮ニ 水面・河川・水路： 地盤沈下に伴う低平地の治水安全度の向上ホ 道路：防災道路ネットワークの早期形成ヘ 宅地：安全・安心のまちづくりト その他：低未利用地の再利用、耕作放棄地の有効利用 沿岸部における多重防御によるまちづくり			
4 県土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標及び地域別の概要	<table border="1"><tr><td data-bbox="332 1451 1365 1755"><p>(1) 規模の目標（主なもの） 【基準年次：平成25年、目標年次：平成32年】</p><ul style="list-style-type: none">＜農地＞効率的な土地利用による高生産性農業の実現 H25：1,297 km² ⇒ H32：1,286 km²＜森林＞森林の保全機能と多面的機能に配慮 H25：4,165 km² ⇒ H32：4,148 km²＜住宅地＞安全な住環境の確保と良好な居住環境の形成 H25：272 km² ⇒ H32：282 km²</td><td data-bbox="1365 1451 2902 1755"><p>(2) 地域別の概要（地域区分）</p><p>県中南部地域：土地の高度利用及び低未利用地の優先的な再利用を通じ、良好な市街地の形成と再生が計画的に行われる土地利用</p><p>県北西部地域：豪雨等による山崩れや土砂流出、地すべり等山地災害を防止する取組を進める土地利用</p><p>県北東部地域：大規模地震に起因する津波による被害を最小限にするため、海岸保全施設の整備を推進し、沿岸域における県土の保全と安全性が確保される土地利用</p></td></tr></table>	<p>(1) 規模の目標（主なもの） 【基準年次：平成25年、目標年次：平成32年】</p> <ul style="list-style-type: none">＜農地＞効率的な土地利用による高生産性農業の実現 H25：1,297 km² ⇒ H32：1,286 km²＜森林＞森林の保全機能と多面的機能に配慮 H25：4,165 km² ⇒ H32：4,148 km²＜住宅地＞安全な住環境の確保と良好な居住環境の形成 H25：272 km² ⇒ H32：282 km²	<p>(2) 地域別の概要（地域区分）</p> <p>県中南部地域：土地の高度利用及び低未利用地の優先的な再利用を通じ、良好な市街地の形成と再生が計画的に行われる土地利用</p> <p>県北西部地域：豪雨等による山崩れや土砂流出、地すべり等山地災害を防止する取組を進める土地利用</p> <p>県北東部地域：大規模地震に起因する津波による被害を最小限にするため、海岸保全施設の整備を推進し、沿岸域における県土の保全と安全性が確保される土地利用</p>		
<p>(1) 規模の目標（主なもの） 【基準年次：平成25年、目標年次：平成32年】</p> <ul style="list-style-type: none">＜農地＞効率的な土地利用による高生産性農業の実現 H25：1,297 km² ⇒ H32：1,286 km²＜森林＞森林の保全機能と多面的機能に配慮 H25：4,165 km² ⇒ H32：4,148 km²＜住宅地＞安全な住環境の確保と良好な居住環境の形成 H25：272 km² ⇒ H32：282 km²	<p>(2) 地域別の概要（地域区分）</p> <p>県中南部地域：土地の高度利用及び低未利用地の優先的な再利用を通じ、良好な市街地の形成と再生が計画的に行われる土地利用</p> <p>県北西部地域：豪雨等による山崩れや土砂流出、地すべり等山地災害を防止する取組を進める土地利用</p> <p>県北東部地域：大規模地震に起因する津波による被害を最小限にするため、海岸保全施設の整備を推進し、沿岸域における県土の保全と安全性が確保される土地利用</p>				
5 本計画を達成するために必要な措置の概要	<table border="1"><tr><td data-bbox="483 1770 1216 1892"><ul style="list-style-type: none">(1) 創造的な復興のための土地利用の推進(2) 国土利用計画法等の適切な運用(3) 地域整備施策の推進</td><td data-bbox="1216 1770 1780 1892"><ul style="list-style-type: none">(4) 県土の保全とさらなる安全性の確保(5) 環境の保全と美しい県土の形成(6) 土地の有効利用の促進</td><td data-bbox="1780 1770 2522 1892"><ul style="list-style-type: none">(7) 土地利用転換の適正化(8) 多様な主体との連携・協働による県土管理の推進(9) 県土に関する調査の推進と成果の普及啓発</td><td data-bbox="2522 1770 2902 1892"><ul style="list-style-type: none">(10) 指標の活用</td></tr></table>	<ul style="list-style-type: none">(1) 創造的な復興のための土地利用の推進(2) 国土利用計画法等の適切な運用(3) 地域整備施策の推進	<ul style="list-style-type: none">(4) 県土の保全とさらなる安全性の確保(5) 環境の保全と美しい県土の形成(6) 土地の有効利用の促進	<ul style="list-style-type: none">(7) 土地利用転換の適正化(8) 多様な主体との連携・協働による県土管理の推進(9) 県土に関する調査の推進と成果の普及啓発	<ul style="list-style-type: none">(10) 指標の活用
<ul style="list-style-type: none">(1) 創造的な復興のための土地利用の推進(2) 国土利用計画法等の適切な運用(3) 地域整備施策の推進	<ul style="list-style-type: none">(4) 県土の保全とさらなる安全性の確保(5) 環境の保全と美しい県土の形成(6) 土地の有効利用の促進	<ul style="list-style-type: none">(7) 土地利用転換の適正化(8) 多様な主体との連携・協働による県土管理の推進(9) 県土に関する調査の推進と成果の普及啓発	<ul style="list-style-type: none">(10) 指標の活用		